

未来をひらく 思いをつたえる

Hirakû

32

特集 中山代表 Bangladesh 訪問記

アイデアを
お待ちしております!

「Hiraku」では、英語・幼児教育の
最新ニュースやトピックなど皆さまに
役立つ情報をお届けいたします。

- ・最近気になっていること
- ・取り上げてほしい話題
- ・新しいコンテンツ etc...

皆さまからのご意見・ご要望を
お待ちしております!

「Hiraku」編集部

TEL : 06-6135-0150

Mail : hiraku@kinderkids.ed.jp

Hirakû

2024年3月発行 Vol.32

次回 5 月末
発行予定

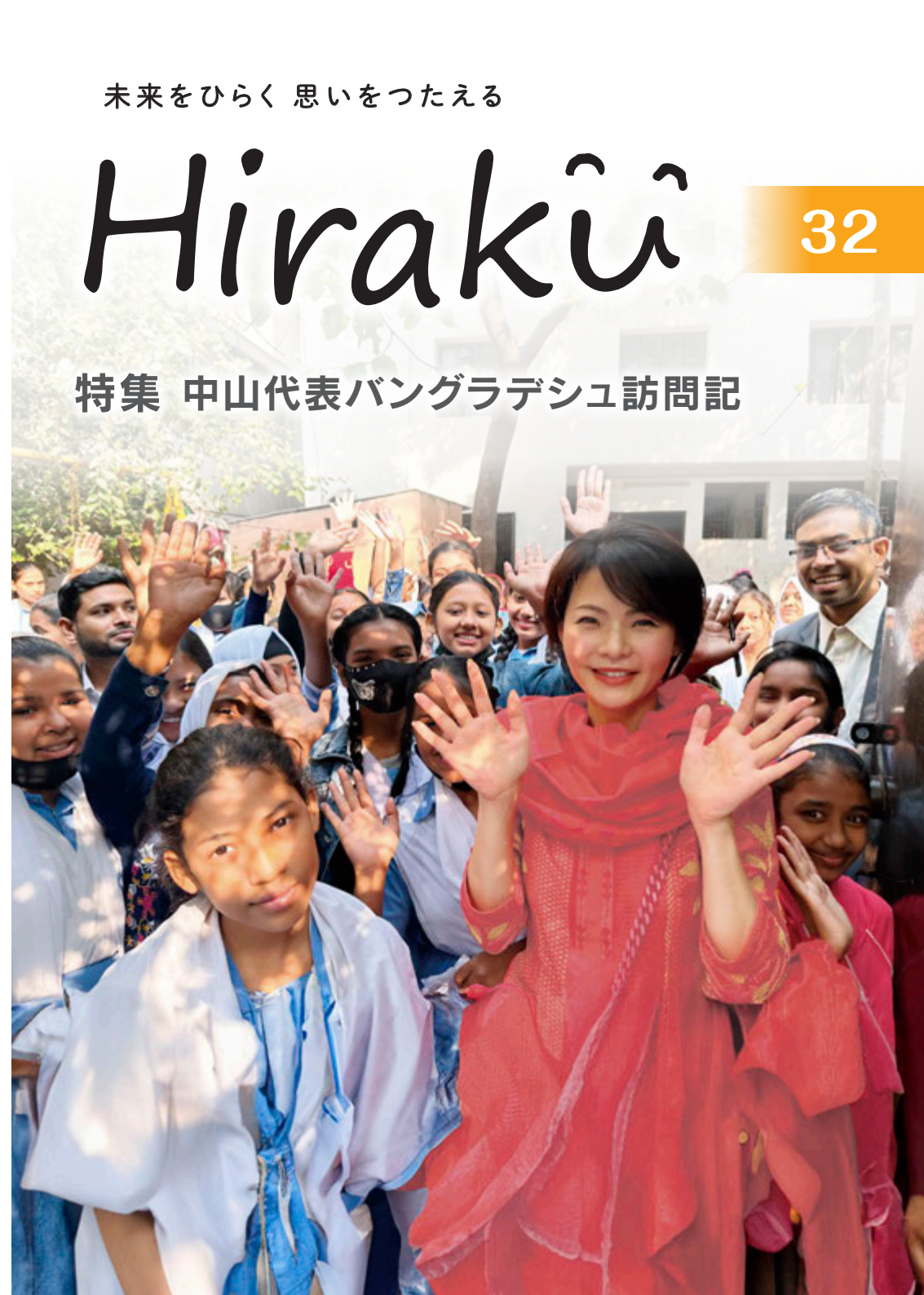
株式会社キンダーキッズ

TEL : 06-6135-0150

〒530-0033 大阪市北区池田町 3-1

ぶらら天満ビル 2F

www.kinderkids.com



貧困からの脱却を目指す新興国の暮らしと教育

キダーキッズ 中山代表 Bangladesh 訪問記

先月、Bangladeshを訪れ、教育の現状や貧困の問題を直接体験する機会を得ました。

見聞きしたことを踏まえ、私たちに何ができるかを一緒に考えてみたいと思います。

Bangladesh訪問の経緯—ムハマド・ユヌス博士との出会い

私は6、7年前にある大学の教授からソーシャルビジネスに関して教えてもらったことがきっかけで、Bangladeshの経済学者、実業家である**ムハマド・ユヌス博士**のことを知りました。ユヌス博士は**無担保少額融資(マイクロ・クレジット)**という独自の方法で貧困層の自立を助け、ソーシャルビジネスの概念を世界に広めた功績でノーベル平和賞を受賞した人物です。

ユヌス博士の著書「**3つのゼロの世界—貧困0・失業0・CO2排出0の新たな経済**」を拝読し、非常に感銘を受けました。この度の訪問は、私の長男が現地でインターンを経験していることが契機となり、実際に息子が関わっている活動を理解するとともに、教育や社会的課題に対する現地の取り組みを深く知ることになりました。



(上)ダッカのユヌスセンターにてムハマド・ユヌス博士と対面
(左)ユヌス博士の著書「3つのゼロの世界」

衝撃を受けたBangladeshの貧困状況

訪問中、私は**ストリートチルドレンの問題や路上生活を送る家族の厳しい現実の状況**を視察する機会が何度もありました。学校に通う子どもたちのうち約半分は親がいないこと、望まない妊娠をした女性たちがシェルターで一時滞在し、出産後も職業訓練などの支援を受けていること、さらに生まれた子どもたちのほとんどが、斡旋団体を通じて里子に出されることなど、女性や子どもを取り巻く過酷な状況を数多く目の当たりにしました。とくにストリートチルドレンの問題は深刻で、ゴミを集めて生計を立てる子どもたちの生活の場を訪れ、稼いだお金で買った食べ物をみんなに分けて食べてゴミ山の横で寝る、そんな生活の

Bangladeshの貧困解決に挑む人たち①

【ムハマド・ユヌス博士】

Bangladesh南部チッタゴンに生まれ、ダッカ大学で修士号を取得した後、渡米してヴァンダービルト大学で経済学の博士号を取得。帰国後1972年にチッタゴン大学経済学部長に就任。1974年の大飢饉による貧困の現状を目の当たりにし、Bangladeshの貧困撲滅のための活動を始める。1983年に村部の貧困層の自立を支援するためグラミン銀行を創設。貧しい人々の自立を支援する「**無担保少額融資(マイクロ・クレジット)**」で貧困撲滅と平和構築に貢献した功績が称えられ2006年ノーベル平和賞を受賞。ビジネスを通して社会課題を解決する「**ソーシャル・ビジネス**」を提唱。

【ユヌス・ソーシャル・ビジネス】

ソーシャル・ビジネスとはムハマド・ユヌス博士が著書「**貧困のない世界を創る—ソーシャル・ビジネスと新しい資本主義—**」で定義した言葉で、**人種差別、貧困、食糧不足、環境破壊といった社会問題の解決を行うビジネス**。「**ビジネスの目的は、利益の最大化ではなく、貧困、教育、環境等の社会問題を解決すること**」「**経済的な持続可能性を実現すること**」「**雇用する社員にとってよい労働環境を保つこと**」などの原則からなる。

実態を知りました。彼らの中には空腹を紛らわせるためにシンナーを吸っている子もいました。

スラム地域で訪れた家庭ではキッチンやトイレを合わせても六畳あるかないかという狭い生活空間で4人家族が暮らしていました。多くの父親は自転車タクシーの運転手として働いているのですが、その売上の半分は元締めに取りられてしまい、日々のわずかな収入で家族を支えています。母親が内職で収入を補って、なんとか家賃が安いスラムの家に住むことができています。路上生活を営む人たちにとっては、スラムのそのような家であっても屋根の下で暮らすことは次のステップに進むことであり、一つの目標となっています。



ゴミを集めて生活するスラムの少年たち

希望の光、グラミンユーグレナとエクマツラ

グラミンユーグレナは、ユヌス博士が設立したグラミン銀行と、日本のユーグレナ社(出雲 充社長)が**Bangladeshの貧困問題解決と栄養改善を目指して活動するソーシャルビジネス企業**です。同社は**栄養不足に悩む子どもたちにユーグレナクッキーの無償配布**をしたり、ユヌス博士の提唱する**マイクロ・クレジットで緑豆栽培に必要な資金を農家に**



世界でも有数の親日国と言われるBangladeshに習った日本語でBangladeshのことを紹介してくれました

提供したり、栽培技術や販売支援をするなどバン
グラデシュの社会課題解決に貢献し、持続可能な
社会の実現を目指しています。

エクマツラは、今回の視察旅行で通訳とガイドを
務めてくださった、人道支援家の渡辺大樹さんが、
2004年に仲間と共同で立ち上げたNGOで、**スト
リートチルドレンの支援と啓発活動**を行っていま
す。路上生活をする子どもたちに、読み書きや算数
などの基礎的な教育を提供する**青空教室**や**シェ
ルター**で路上生活から子どもたちを保護し、**様々な
職業訓練を実施**するなど将来、彼らが自立するた
めの活動を行っています。特筆すべきは、支援を
受けて巣立った生徒が後輩を育成する側となり、
次世代の子供たちに学びと希望を提供するという
素晴らしい仕組みが生まれていることです。また同
団体ではDV被害を受けた女性や、家族から追い
出された女性のためのシェルターを運営し、職業
訓練を行い、女性の自立にも貢献しています。

子供たちの生き生きとした目と 真の教育を考える

グラミンユングレナがクッキーを配布している学校
を訪れたのですが、**貧困であってもバングラデ
シュの子どもたちは学校生活を心から楽しんでい
て、その目はキラキラと輝いていました。「学校は楽
しい？」と聞くと全員が「楽しい！」と答え、日本では
学校が嫌いで、自ら学校に行かないという選択を
する子どもも多くなることを伝えると、とても驚いていま
した。物質的な豊かさに恵まれない子どもたちでも、
学校が楽しいと感じることができるのは、現地での
教育が単にテストの点数や成績ではなく、**自信や
夢、そして人とのつながりを提供する場所**だからで
はないでしょうか。**

バングラデシュの貧困解決に挑む人たち②

【エクマツラ共同創設者 渡辺大樹さん】



大学時代にブーケットで
スラムの光景に衝撃を
受け、卒業後アルバイト
で資金を作り2002年に
バングラデシュへ渡る。
現地のストリートチルド
レン支援を目的に2004
年に民間活動団体「エクマツラ」を設立。ダッカで
「青空教室」や「シェルターホーム」を開き、2016年
には「エクマツラアカデミー」を開校し、**職業訓練
やリーダー育成を行うなど、ストリートチルドレン
への多角的な支援活動を展開。**



渡辺麻恵さんは女性支援部門を担当し、ハンディクラフト工房を
設立して貧困女性に雇用機会を提供することに力を注ぎ、ご主人
の大樹さんと共に社会貢献に熱心に取り組んでいます



学校を心から楽しんでいるバングラデシュの子どもたち

持続可能な国際支援を

国際的な支援のあり方としては、10年以上かけて少しずつ
規模を拡大していったグラミンユングレナの緑豆栽培事業
のように、単発の大きな仕事の発注よりも、**小さくとも持続
性のある発注**が現地の雇用を支える上で重要だと感じまし
た。キンダーキッズでは、バングラデシュの繊維産業の強み
を生かし、布製のバッグなどの商品を定期的に発注するプ
ランが出ており、これにより現地で働く女性たちに安定した
収入源を提供し、**持続可能な雇用の創出**に貢献したいと考
えています。



バングラデシュの伝統衣装に使うストーンや特産品で
あるジュートを使って作られた、エクマツラハンディ
クラフトの手作り製品

バングラデシュ視察で得た新たな視点

ムハマド・ユヌス博士との出会いは、私にとって非常に意義深いものでした。お会いした際、ユヌス博士は
「**富を築くことで得られる喜びは大きい**が、**人を笑顔にすることで感じる喜びは、それをはるかに超える**」と
述べられ、人が働く上で、利益追求だけでなく社会に貢献できることが大きな「やりがい」につながること
を教わりました。また、ユヌス博士は、実行する勇気が人を区別すると話されました。多くが良いアイデア
を思いつくものの、それを行動に移す人は少ないのです。この**行動の重要性と社会貢献へのチャレンジ**
を、教育でも積極的に教えていくことが重要だと感じています。

より良い世界の実現のために、私たちができる第一歩



今回、バングラデシュで目の当たりにした多くのことは、キンダーキッズ
の支援先であるカンボジアを訪問したときを超える衝撃を受けま
した。このような**世界の現実—想像もつかない現実—を日本の子ど
もたちが実際に見ることは、非常に貴重な体験**となるでしょう。キン
ダーキッズやグラッドクラブの子どもたちが実際に見て体験し、それ
から何を思い、考えるかは大きな学びになります。現地での研修旅
行は、エクマツラなどの団体の活動支援にも繋がります。

衛生的で安全な日本とは異なり、世界にはまだ基本的な生活条件
すら満たされていない場所が多く存在します。特に社会のしわ寄せ
を子どもたちが受けている現状は、非常に心が痛みます。彼らは自分の意志とは無関係に厳しい状況に
置かれ、自らの努力だけでは変えられないのです。たとえ微力であっても、多くの人が関わることで大きな
波を起こすことができます。**重要なのは「知ること」**です。私たち自身や子どもたちが、**世界の現状を知り、
理解することが第一歩**です。知った上で、自分に何ができるかを考え、行動に移すことが、より良い世界
の実現に繋がります。**「世界を知ること」の大切さ**をこれからも子どもたちに伝え続けていくことを、改めて
強く決意した旅でした。

育児
相談

進学
相談

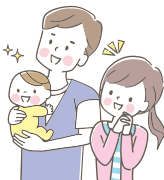
保護者様

英語の
レベル

なんでも

卒園後の
英語力

相談会



キンダーキッズでは、子育てに関する様々な保護者の皆様のお悩みを解決するお手伝いとして「**保護者様なんでも相談会**」を実施しております。今年度は13校にて75組のご家族とお話をさせていただきました。ご参加いただいた保護者の方の大多数はお母様でしたが、ご両親揃って来られた方が5組、お父様がお一人で来られた方も3人おられました。

多くの保護者様との対話を通じて感じたことを、「なんでも相談会」の発案者である担当者に話を聞きました。

「なんでも相談会」を始めた理由

私は共働きしながら3人の子どもを育てている母親で、子どもたちは全員キンダーキッズの卒園生です。キンダーキッズの保護者として、他の保護者の方々と共に共感できる多くの悩みや苦労を感じています。子育ての過程で、数多くの「課題や不安」に直面してきました。

これらの経験を踏まえ、保護者の方々が見る育児の問題や疑問に対して、ただ共感するだけではなく、具体的な解決策を共に模索し、サポートする機会を提供したいと考えています。誰かに自分の思いを話すことで心が少し軽くなることがありますが、同じ経験をした「キンダー生の母」同士だからこそ、より深い理解と共感を得られると信じ、「なんでも相談会」の開催を決めました。



誰かに聞いてほしい、コロナ禍での孤独

あるお母様は「コロナ禍の中で望んだ立ち合い出産もできず、仕事で忙しいご主人にも自分の実家の家族にもなかなか相談ができる状況ではなかった」と過去の3年間を振り返られました。そして「誰かに話を聞いてほしい、愚痴も言いたい、自分の頑張りを認めて欲しかった」と涙を流されたのです。誰にも相談できないというのは、これほどに辛いことなのだと言っていました。



「本当にこれが正しい選択？」子育てには不安が尽きない

また別のお母様は、上のお子さんに幼い頃英語を習わせなかったことや、受験した学校が合わなかった結果転校した経験があり、下のお子さんには同じ経験をさせたくないと考え、キンダーキッズを選び、慎重に小学校選びをされたそうです。しかし、その選択が本当に正しいのか不安を感じているとのことでした。

お話をうかがい、私も自身の経験を振り返りながら、親の願いや期待がお子さんにとってどのような影響を与えるかをお話しました。子どもの意見を大切に、「やりたいこと」を全力でサポートし、一緒に楽しむことの大切さ、そして、子どもが自分で選んだことに対しては、簡単に諦めさせずに挑戦を続けることが大事だということをお伝えしました。会話を通じてお母様はご自身の考えを整理し、お子さまの幸せと成長をどのように最優先に考えるかについて、いくつかのヒントを見つけることができたようです。

参加された保護者様のご様子？

相談上プライベートな部分にも踏み込んだ質問をし、不快感、不信感を与えてしまった方もおられ、改めて謝罪したこともありましたが、参加された殆どの方は最後に「**今後も相談会してくれますか？**」とお聞きになられました。スクールマネージャーからも「スッキリしたお顔で帰られていた保護者が多かった」ということを聞き、この相談会を開いて本当に良かったと実感しました。

担当者からのメッセージ



キンダーキッズ 運営本部
山下くみ子

よく子どもに「人からされて嫌なことはお友達にしたらダメよ」といいますね。同様に私は「親(大人)からされて嫌だったことは子どもにしない」と決めています。子どもたちとはいつも笑顔でいたい、楽しく過ごしたいというのは誰もが感じること。「叱る」時もいつまでも「叱らない」、「ごめんなさい」が言えた時点で「この話は終わり」とメリハリをつけることが大切だと考えています。性別、兄弟姉妹の有無、子ども本人の性格、家庭環境など、一人ひとりの子どもを取り巻く状況は千差万別です。子育てに絶対的な「正解」は存在しません。この相談会を通じて、多くの保護者様の悩みを少しでも軽減し、解決の糸口を見つけるお手伝いをしたいと考えています。

キンダーキッズ カナダ・ゲストハウス のご紹介

グローバルトランスファー(海外一時転園)でカナダを訪れるご家族が安心してご宿泊いただけるよう、「キンダーキッズ カナダ・ゲストハウス」をご用意いたしました。これまで保護者様にご自身でAirbnbなどで宿泊先を探して予約する必要がありましたが、その手間を省くことが可能になります。周囲は閑静な住宅地で、オークビル校まで車でわずか18分、クラークソン校までは約20分と通園に便利な場所に位置しています。近隣には朝7時から開店している飲食店や、食料品や日用品が揃ったスーパー



広々としたキッチンで、滞在中も本格的な調理ができます。



おもちゃや絵本などキッズ用品もご用意しています。

マーケット、ダラーストアがありますので、生活に必要なものはすぐに手に入ります。

また、おもちゃや子ども用食器、食事用補助椅子などもご用意しておりますので、日本からお持ちいただく必要はございません。さらに、家の前には遊具を完備した広い公園があり、お子様が思い切り遊ぶことができます。

ベッドルーム

*料金についてはお問い合わせください。



【Queen】
専用バスルーム・
トイレ付



【Double1】
バスルーム・
トイレ共用



【Double2】
バスルーム・
トイレ共用

*共用バスルームは、2Fと地下に各1室あります。

カナダに一時転園をされる際にはぜひ、
ゲストハウスのご利用をご検討ください。



キンダーキッズ・カナダゲストハウス情報

- 住所** 265 Sarah Cline Drive, Oakville Ontario
- 駐車場** 車2台分のスペースがあり、駐車場から家に入ることができます。
- 寝具** クイーンベッド、必要に応じてクローゼット内にある追加のベビーベッドもご利用いただけます。
- セキュリティ** 正面玄関と各部屋のドアはキーコードロックとなっています。出発の1週間前に電子メールで連絡させていただきます。
- チェックイン** 時間の指定はございません。遅いフライトでも、いつでもチェックインできます。

KINDER KIDS × familiar

キンダーキッズ/ファミリア コラボグッズ

レッスンバッグ & パスケースセット 数量限定 販売スタート!



以前キンダーキッズ西宮校にて、「お受験アイテムの選び方」セミナーを開催していただいた子ども服ブランド「ファミリア」と、キンダーキッズとのコラボレーション商品が登場しました!

「子どもの可能性を創出する」という企業理念のもと、「モノ」「コト」「マナビ」の体験を通じて、子どもたちの可能性を広げるコンテンツを提供し続けているファミリア。子どもたちの健やかな成長を願う心から生み出される製品は、多くの保護者層からの信頼を得ています。

ファミリアの伝統的な品質と、国際的な視野を持ち、次世代の育成を目指すキンダーキッズは、お互いに子ども一人ひとりの「可能性」を信じる理念で共鳴し、このたびのコラボレーションを実現しました。ファミリアで人気の平デニムを使用し、キンダーキッズオリジナルデザインのアプリーケが施された「レッスンバッグ」と、バッグとお揃いデザインの「パスケース」をリリースしました。通園や習い事など、日常的に活躍すること間違いなしのアイテムです!



1 B4サイズまで入れられるゆったりサイズ裏地は定番のギンガムチェック



2 キンダーの園児とフォニックスキャラクターがファミリアのファミちゃんコラボ!



3 パスケースはブルーカードを入れるのにもピッタリ



4 マジックテープで閉じられるので中のカードも落ちずに安心



数量限定

キンダーキッズ × ファミリア レッスンバッグ&パスケース セット

【販売価格】 23,100 円(税込)

【申込期間】 4月上旬

*Kinder+ にて先着順受付

詳しくはKinder+にてご確認ください→



*キンダーキッズへ登園するベビーから K3 までの園児が購入の対象となります。